

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療学科】

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
卒業研究			選択	4	4	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
坂本 祐太 他		D310	y.sakamoto			
授業の目的・概要		本科目では、課題に対して問題を発見し解決する能力や、専門知識と実験技術を問題解決に利用できる能力の向上を目的とする。担当教員の指導のもと個別の研究テーマを設定し、研究計画の立案、データの取得、分析・解析方法、議論の進め方などを習得し、得た情報のまとめ方を学び、卒業論文を作成する。				
授業形式・方法		☒ 対面授業 ☒ 遠隔授業(双方向型) ☒ 遠隔授業(自主学习)	☐ 講義 ☒ 実習	☒ 演習 ☒ 実技	☒ PBL ☐ グループワーク ☐ その他 (	☐ 反転授業 ☒ プレゼンテーション ☒ ディスカッション・ディベート ☒ 実習・フィールドワーク
学習上の助言		卒業論文に関する研究は年間を通じて担当教員との対話、指導を可能とする。本科目の履修を希望する者は必ず 2、3 年のうちに希望分野の教員に相談すること。実験計画は研究指導教員と十分打ち合わせをして進めること。				
教科書		各研究指導教員の指示に従うこと。				
参考書		各研究指導教員の指示に従うこと。				
外部教材		各研究指導教員の指示に従うこと。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	研究計画にそって文献検索や資料を収集する。			HSU(2)、(6)、PT (2)、(5)、(6)		
②	研究に必要な実験や調査を計画する。			HSU(2)、(6)、PT (2)、(5)、(6)		
③	実験や調査を適切な手順と方法で実施する。			HSU(2)、(6)、PT (2)、(5)、(6)		
④	仮説やデータに基づいて研究成果を論述する。			HSU(2)、(6)、PT (2)、(5)、(6)		
⑤	論文を定められた形式で発表する。			HSU(2)、(6)、PT (2)、(5)、(6)		
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等			授業の方法	学習課題・学習時間（時間）	
1	卒業研究の説明		坂本	講義	科目の説明を行う。	
2-8	研究テーマに関する資料収集・文献抄読・討議・研究計画の立案		[担当] 各担当教員	演 習 ・ 実 習 ・ 実技	各研究指導教員の指示に従うこと。	180
9-18	計画に基づいたデータ計測・解析・整理・処理、情報精査					
19-24	データ解釈・討論、研究結果と考察のまとめ					
25-30	論文執筆、発表用資料作成、討論、発表					

達成度評価						
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他
			60	40		
総合力指標	知識・技術力		10	0		
	思考・推論・創造する力		20	20		
	協調性・リーダーシップ		0	0		
	発表・表現伝達する力		0	30		
	コミュニケーション力		0	0		
	取組みの姿勢・意欲		10	0		
	問題を発見・解決する力		20	0		

評価のポイント				フィードバックの方法
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	
レポート	①	✓	期限内に提出された論文内容で評価する。評価内容は、論文の基本構造を守っているか、またデータの扱いの適切さ、正確な論文引用、論理的に文章が記載されているか等を評価する。評価割合は 60%と	各研究指導教員より履修者に説明する。
	②	✓		
	③	✓		

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

	④	✓	する。	
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	学期末に開催する卒業研究発表会によって評価を行う。発表会の評価はプレゼンテーションにおける表現力とデータの妥当性のある解釈、論理的な質疑応答ができているかなどを評価する。評価割合は40%とする。	卒業研究発表会后、発表に関するフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
備 考				
他 担 当 教 員	高村 浩司、粕山 達也、三科 貴博、坂本 宏史、田中 将志、成 昌燮、升 佑二郎、関口 賢人、大塚 篤也、甘利 貴志、元山 美緒			
教員の実務経験	理学療法士として 7 年の臨床経験、研究の実務経験あり			
実践的授業の内容	実践的授業の内容 研究テーマを示した理学療法学科の専任教員と協議の上、受講するものとする。初回の説明以降は所属する研究室の教員と相談の上、日程を調節して実施すること。			
そ の 他	感染対策：大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。 問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 遠隔授業：teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の有線または無線環境を推奨する。 今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。			